

第15回世界仏教婦人会大会(平成27年5月30日(土)・31日(日) カナダ カルガリー)

# 寺婦のひろば

第 18 号

山陰教区  
寺族婦人会連盟

題字：鷲谷良子

## 阿弥陀さまと向き合う

神門組乗光寺 北島清秀

『浄土真宗の教章(私の歩む道)』には、「親鸞聖人の教えに

みちびかれて、阿弥陀如来の心を聞き、念仏を称えつつ、つねにわが身をふりかえり」と、

私たちの暮らしが示されています。わが心でわが身をふり返つても、都合のいい姿しか見えてきません。親鸞聖人の教え

にみちびかれて、阿弥陀さまの心を聞き、そしてお念仏を称えながら、わが身をふり返るのです。それは、「阿弥陀さまと向き合う」という姿です。

「今日までに私がついた嘘なんて、どうでもいいよというような海」——これは、『サラダ記念日』(河出書房新社)に収められている俵万智さんの歌です。目の前に広がる大海と向き合いながら、わが身をふり返る、そのような歌です。時には嘘をついたこともあったのでしょうか。人を傷つけたこともあったのかも

知れません。それでも、私のことをすべてわかつて包んでくれる、そんな頼もしさを海に感じ

られたのだと思います。

親鸞聖人は「如衆水入海一味(どの川の水も海に入ると一つの味になる)」「(『正信偈』)とおっしゃいました。

大きい川、小さい川、きれいな水の川、濁った水の川・・・、海は、どんな川の水も等しく受け入れて、同じ塩味にします。大柄な人、細身の人、心優しい人、愚痴の多い人、ついつい嘘をついてしまう人、穏やかな人、怒りっぽい人、思いやりのある人、自分勝手な人・・・、阿弥陀さまは、どんな人も等しく受け入れて、同じ仏さまに仕上げてくださいます。「如衆水入海一味」、深く広い、そして頼もしい海をご覧になりながら阿弥陀さまと向き合っていらいっしやるお姿が感じられます。

日頃は阿弥陀さまに背を向けてしまう私たちです。阿弥陀さまのことを忘れてしまう私たちです。ですから、努めて、「阿弥陀さまと向き合う」ご縁を大切にいたしましょう。

# 「寺族婦人研修会に参加して」

## 「過去帳開示問題」に学ぶ」

出雲組覚専寺 佐々木 知江三

七月三十日、山陰教堂教化センターに於いて教区寺族婦人研修会が開催されました。

社会部人権問題担当部長の長屋善洋先生を講師にお迎えし勉強させていただきました。

過去帳の開示問題については、近年大きな波紋を呼んでいる事で私達寺族にとつても興味深く、関心を寄せている内容であります。

これまで過去帳の開示にかかる問題をはじめ、寺院における個人情報報の取り扱いはそれぞれの寺院により様々でした。

しかし、その一定化されていない事が、多くの問題を引き起こしてきます。昨年二月、「過去帳又はこれに類する帳簿の取扱い基準」等が改正されました。また、取扱い責任者・記載事項・記載禁止事項・閲覧禁止について等厳しく定められました。

長屋先生は、この改正された内容について詳しく説明をし、趣旨とねらいについてもお話して下さい

ました。特に過去帳には、ご門徒の個人情報に詰まっております。開示により基本的人権を侵害する事や差別問題の原因になつてはならない、という点について強く訴えられたように感じました。

午後からは、問題提起された内容を六班に分かれ、いくつかのポイントをもとに各お寺での個人情報管理・門信徒との関係など、実際の経験を出し合い、情報交換をしました。

この情報交換はとても有意義なものでした。日頃自分達が疑問に感じている事など出し合うことで共感も生まれました。また、自分が正しいと認識していたことが実は間違ひであったことなど、気づきの場にもなったと私だけでなく参加された多くの方が感じられたことと思います。

私達寺族は住職が不在の際、お寺の留守を預かっています。留守の間には様々な方が来寺になり、様々な場面に遭遇します。私達はただの留

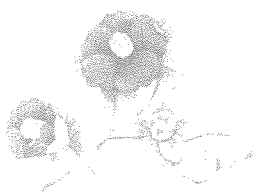
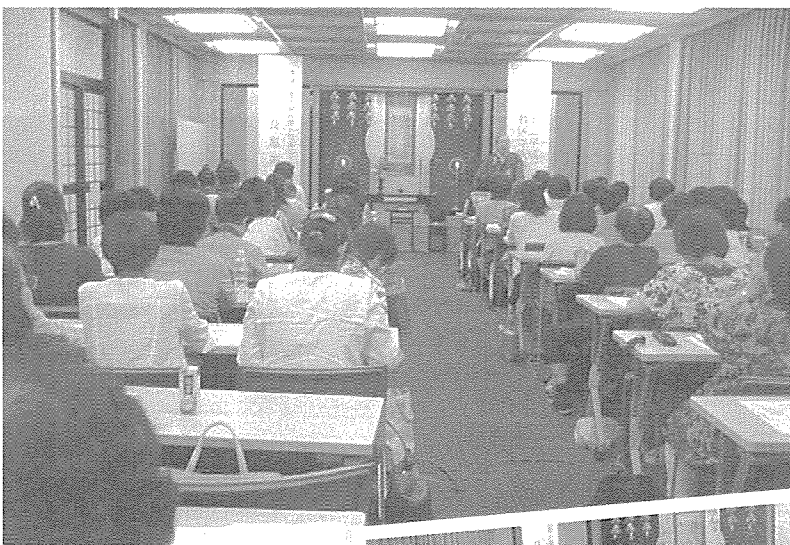
守番ではなく、どんな場面でも住職に代わり正確に受け答えが出来るよう、常日頃より寺を守る「ご門徒(プライバシー)を守る」という意識を忘れてはならないように思います。

研修会では多くの事を学びましたが、一回の研修ではなく幾度も研

修会を重ねる機会を作っていたら、多くの寺族の皆様が参加することで新しく改正された内容が定着されれば、と考えます。

この度の研修会が今後の御同朋の社会をめざす一歩になればと、念じております。

合掌



# 教区「若婦人のつどい」に参加して

飯南組蓮光寺 藤原美佳

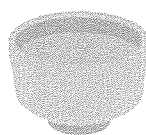
去る七月二十六日と十月十七日の二日間に渡り、松江 清松庵たちばなにて教区「若婦人のつどい」に参加させていただきました。ご講話には、大田東組極楽寺ご住職、福岡信隆先生。おもてなしの心についてお話いただきました。仏教用語の「一期一会」という言葉は、人をもてなす機会というのはその時その時で一生に一度きりかもしれない・・・だから真剣に心から相手を敬うべきだ、という教え。私達が日常お客様に対して接する側の心構えや、お茶の煎れ方一つをとって、おもてなしの心が大切だということが深く心に残りました。

講話の後に実践研修があり、お座敷の入り方や襖の開け閉め、茶室の畳の歩き方など教わりました。茶道の心得がない私にとつて、何もかもが初めてで緊張しましたが、先生方に丁寧にご指導いただきました。入室から始まって左右左・・・と足を運び自分の席へついた時は本当に

安心して隣の方と微笑み合ったものです。その後、和菓子と薄茶をいただきましたが、その薄茶が何と美味しかったことか。上品で体の中に染み渡るようでした。二回目の研修の際にはグループに分かれて指導いただき、各自お茶を点て、他の方にお出しして飲んでいただくなど、お茶席での作法を学びました。こうして実際にやってみると、お茶席での動作、所作全てに無駄がなく、本当に美しいと思えました。千利休以来四百年あまりをかけて作りあげられた茶道の形。花や器を愛で、思いやりや感謝の気持ち、それらを形にしたものが茶道の基本になる、という事を身をもって感じました。

二回の研修を通して、会場が茶室ということもあり先生や他の参加者の方々との距離も近く、わかりやすく教えていただきました。実際に日常における形は違えども、お客様を敬い感謝してもてなす心はどれも同じです。

今回の研修で教えていただいた、そのおもてなしの心を、私も日々の生活に活かしていきたいと思いました。



## 「寺族若婦人研修会のご案内」

期 日 二〇一六(平成二十八)年三月一日(火)

会 場 益田組 専光寺(久城町)

ご講師 柘嶋智勢子先生(専光寺前坊守)

講 題 「坊守としてのあゆみ」

午後からは、ハンドタオルでマスコットづくりのクラフトを通じて、親睦を深めていただく楽しい企画もございます。たくさんのご参加をお待ちいたしております。

「ご消息を拝して」

寺族婦人会連盟委員長

毛利 壽恵子

昨年六月、本願寺第二十五代門主を継承された、専如ご門主が、十月二十九日、山陰教区・本願寺山陰教区にご巡回・ご巡拝くださいました。ご消息には、み教えとともに、東日本大震災をはじめとする、被災地の復興支援、「自信教人信」のことばがあります。

四月から、お役をお引受けし、任の重さを感じておりますが、復興支援については、前役員様が、すでに東北教区への支援活動をしてくださっていますので、それを継続することが決まっております。

「自信教人信」

(善導大師・往生礼讃)

阿弥陀仏の本願の救いを自らも信じ、他の人にも信を勧める。信を勧める教化が、阿弥陀仏への報恩となる。ご門主様のお心を拝して寺族婦人としての報恩を改めて思います。

役員の皆様、会員の皆様には、今後もお力添をよろしくお願い申し上げます。合掌

第十五回世界仏教婦人会大会に参加して

出雲組源光寺 西谷 遼子

カナダの先住民の方たちが民族衣装を着て会場の中を歩き回っておられ、あちらこちらで写真撮影が行われています。約二千人の人が集まった会場はざわざわとしており、なんだかイベント会場のようでした。その中の半分は日本から来た方々だったので、日本語だけではなく英語やポルトガル語も飛び交っており、なんだか不思議な気持ちになりました。そんな中、開会式が始まると、会場の中は静かになり、みんなが一斉にステージの方を向きます。そこには日本語で「南無阿弥陀仏」と書かれていました。日本のお寺のような荘厳はありませんが、献灯・献花がなされ、雅楽の音色が鳴り響き、法衣を身にまとった開教使の先生方がステージに上がられると、そこはまるで本堂のようになりまして。先ほどまで異なる言葉を話していた人たちが、一緒に「南無阿弥陀仏」とお念仏を称え、一緒に「讚仏偈」をおつとめします。それは、心があたたくくなるような時間でした。

五月三十日・三十一日の二日間、カナダのカルガリーで行われた「第十五回世界仏教婦人会大会」に、私は山陰教区のみなさまと一緒に参加させていただきました。会場では、記念講演や仏教婦人会の総会が行われ、それは同時通訳によって英語、日本語、ポルトガル語という三ヶ国語で聞くことができました。また、三十日の午後に行われたワークショップでは、八つの会場に分かれて様々な体験をすることができました。会場となったカナダ開教区をはじめ、北米開教区、ハワイ開教区、南米開教区から多くの方が参加しておられ、きっと日本にいるだけでは出会えなかったはずの多くの方々と出会わせていただくことができました。また、今までお会いしたことのない山陰教区のみなさまとも一緒に過ごさせていただいたこと、とても嬉しいことでした。浄土真宗のみ教えを慶んでいる方がこんなにもたくさんいらっしゃるのだということ、身をもって感じることで、この大会に参加する



ことができ、本当によかったと思えました。日本から遠く離れた土地に浄土真宗のみ教えが伝わっているという目を当たりにすると、とても不思議な気持ちになりました。しかし、その教えに出遇えたことを慶んでいらつしやる方々のお姿を拝見して、私自身もその気持ちを忘れないようにしよう、と強く感じました。そして、もしできるなら、四年後にサンフランシスコで行われる大会で、また皆さまにお会いしたいです。

### 新役員名簿

#### 連盟役員

役職	氏名	所属寺
委員長	毛利 壽恵子	大雄寺
副委員長	高橋 玲子	福蔵坊
副委員長	高倉 紀子	西善寺
常任委員	内藤 照美	妙寂寺
常任委員	西谷 早苗	通伝寺
常任委員	石井 久子	龍蔵寺
常任委員	佐和 多喜子	圓立寺
常任委員	緋川 正子	光西寺
常任委員	藤谷 邦枝	蓮長寺
監事	楠 智加子	善徳寺
監事	能 美ゆかり	浄光寺

#### 各組代表委員

組名	氏名	所属寺
鳥取因幡	片上 優子	浄宗寺
鳥取伯耆	内藤 照美	妙寂寺
松江	高野 道子	西宗寺
出雲	西谷 早苗	通伝寺
神門	松田 まひる	西楽寺
出雲南	楠 智加子	善徳寺
飯南	高橋 玲子	福蔵坊
大田東	大石 瑠美子	大恩寺
大田中	毛利 壽恵子	大雄寺
大田西	石井 久子	龍蔵寺
佐波	佐和 多喜子	圓立寺
川本	圓山 智恵美	西勝寺
千須賀	太田 時子	西念寺
邑智東	高倉 紀子	西善寺
邑智西	日高 和恵	願入寺
江津	能 美ゆかり	浄光寺
浜田	緋川 正子	光西寺
三隅	早川 和子	浄蓮寺
益田	藤谷 邦枝	蓮長寺
鹿足	陶山 法恵	浄念寺

### 東北ボランティアセンターへお茶会支援 (平成27年度第1回)

平成27年9月2日送付  
(菓子送付) 精算書

品名	金額(円)	備考
しまねっこプチシュー	2,160	2箱
しまねっこミルクパイ	1,728	2箱
銀山しぐれ	6,200	50個
佐比売栗	8,700	50個
きれんげ	5,650	10個
松葉かに処 焼きかにせん	2,160	2箱
コーヒー・シュガー・緑茶ほか	4,974	
送料	864	
合計	32,436	

## 「いだからともじつながるわたしのいのち」

川本組信楽寺 非々 玲子

第八回でしたかハワイで開催された世界仏教婦人会大会に参加して感動した母は、次のカナダ大会に行くのを楽しみにしていました。しかし、父の看病のため断念したという経緯があります。「カナダは私が行きたかった所だなあ。ぜひ行って来んさい。」と勧められ、留守を夫に頼んで『第十五回世界仏教婦人会大会』に参加いたしました。

開会式、記念講演、ワークショップ、世界仏教連盟総会、代表者意見発表、閉会式。いずれも心に残るありがたいご縁をいただいたことです。

なかでも、パトリシア・ウスキ開教使による講演には、自らの生き方を振り返らせる力がありました。「飛行機で目的地に着いた人が『食事がまじかかった。席が狭くて窮屈だも、座ったまま空を飛んで来たことを喜ぶことはない。』との話に、私のことを言われたのかと耳の痛い思いでした。

「心の世界と現実の問題は切り離せない。現在の様々な問題は経済の問題に起因する。」との指摘は、ISのテロを見ても、根底に貧困と格差等の問題があるのだろうかとうなづ

なければならぬ。他人を責める前に自己反省を。一如の世界から慈悲をいただいていることに目覚めよう。」と話されました。



災害など苦しみの多い世界に生きている私たちは、仏教で示された三

宝帰依を人生の理想とし、世界に平穏な平和が訪れるよう努めていくことを宣言しました。自己中心的で不寛容、身勝手な人間を救っていただく如来の力に目覚めることで、人生の目的も生き方も変わってくるのだと受け止めています。

私に世界仏教婦人会大会への参加を勧めてくれた母は、百歳を一期に往生いたしました。「阿弥陀様にご報謝したい。」を口癖に生きてきた母の思いを受け継ぎ、浄土真宗のみ教えにしたがって、一日一日を大切に生きていこうとの思いを強くしています。

この寺に生きて百年いかほどの若葉を見しか落ち葉踏みしか白露の頃逝きし母なり納骨の朝冷えびえと初霜の降る

釋玲春

2014(平成26)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計決算

歳入の部

款項	費目	26年度決算	26年度予算	対比△減	説明
1	会費	495,000	495,000	0	
1	本年度	495,000	495,000	0	1500円×330単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	参加費	1,162,000	220,000	942,000	
1	参加費	52,000	220,000	△168,000	若寺婦研2,000円×26名分
2	研修旅行参加費	1,110,000	0	1,110,000	(費目新設) 22名分
5	1 雑収入	58,680	7,856	50,824	仙台別院42,000円、若寺婦研16,680円
6	1 前年度繰越金	297,144	297,144	0	
	合計	2,212,824	1,220,000	992,824	

歳出の部

款項	費目	26年度決算	26年度予算	対比△超過	説明
1	研修費	1,526,960	550,000	※976,960	
1	研修費	417,566	550,000	132,434	寺婦研修旅行193,986円、若寺婦223,580円
2	研修旅行経費	1,109,394	0	※1,109,394	費目新設
2	1 会議費	243,600	350,000	106,400	監査代表者会 編集 常任
3	1 事務通信費	97,917	100,000	2,083	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	79,920	70,000	※9,920	寺婦のひろば
5	1 回金	30,000	30,000	0	特別会計への回金
6	1 諸費	0	30,000	30,000	
7	1 予備費	86,772	90,000	3,228	東北44,772円、仙台別院42,000円
	合計	2,065,169	1,220,000	△845,169	

歳入	2,212,824
歳出	2,065,169
差引残額	147,655

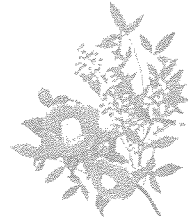
2015(平成27)年度山陰教区寺族婦人会連盟歳計予算

歳入の部

款項	費目	27年度予算	26年度予算	対比△減	説明
1	会費	492,000	495,000	△3,000	
1	本年度	492,000	495,000	△3,000	1,500円×328単位分
2	過年度	0	0	0	
2	1 助成金	200,000	200,000	0	教区助成金
3	回金	0	0	0	
1	教区より回金	0	0	0	本年度なし
2	特別会計より回金	0	0	0	本年度なし
4	1 参加費	120,000	220,000	△100,000	研修会参加費
5	1 雑収入	10,345	7,856	2,489	
6	1 前年度繰越金	147,655	297,144	△149,489	
	合計	970,000	1,220,000	△250,000	

歳出の部

款項	費目	27年度予算	26年度予算	対比△減	説明
1	1 研修費	400,000	550,000	△150,000	寺婦研修会・若寺婦研
2	1 会議費	250,000	350,000	△100,000	代表者会常任・正副委員長
3	1 事務通信費	100,000	100,000	0	郵券料・事務消耗品
4	1 教化費	70,000	70,000	0	寺婦のひろば
5	1 回金	30,000	30,000	0	特別会計への回金
6	1 諸費	30,000	30,000	0	
7	1 予備費	90,000	90,000	0	
	合計	970,000	1,220,000	△250,000	



2014(平成26)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計決算

歳入の部

款	費目	26年度決算	26年度予算	対比△減	説明
1	前年度繰越金	342,163	342,163	0	前年度繰越金
2	回金	30,000	30,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	0	837	△837	
	合計	372,163	373,000	△837	

歳出の部

款	費目	26年度決算	26年度予算	対比△減	説明
1	翌年度繰越見込金	372,163	373,000	△837	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	372,163	373,000	△837	

2015(平成27)年度山陰教区寺族婦人会連盟特別会計歳計予算

歳入の部

款	費目	27年度予算	26年度予算	対比△減	説明
1	前年度繰越金	372,163	342,163	30,000	前年度繰越金
2	回金	30,000	30,000	0	一般会計からの回金
3	雑収入	837	837	0	
	合計	403,000	373,000	30,000	

歳出の部

款	費目	27年度予算	26年度予算	対比△減	説明
1	翌年度繰越見込金	403,000	373,000	30,000	翌年度繰越見込金
2	回金	0	0	0	
	合計	403,000	373,000	30,000	

編集後記

早いもので年の瀬です。お忙しい事と思います。今年も、終戦七十周年を迎えました。各地で、非戦・平和の思いを新たにしている場が持たれました。平和である事を願い、命の大切さを考える節目の年になった事と思います。「戦争するのも人間、戦争しない(戦争を終らせる)のも人間」と何かの記事で読みました。この言葉が胸にさりました。また新しい一年が始まります。寺婦の活動、寺婦のひろば、共々によりしく願います。最後になりましたが、ご寄稿いただいた皆さま、ありがとうございました。

